



(涼しい球磨川のせ、らぎ……人吉市)

六月の言葉

どこの地方へ行つても××時間というのがある。熊本ならば「肥後時間」である。常会や集会などでも一時間や二時間位の遅刻は当然だとされる困つた習慣である。

こんな状態を不合理とも感じないという事は、つまりは生活態度のルーズさを語つてゐることに他ならない。まじめに時間どりに出席しても空しく待たされたりすると結局その人もおくれくるようになる。ルーズな習慣が当りまえのようになり、まじめな者が時間が空費して馬鹿をみることになる。

六月十日は時の記念日。
* 誰でも、時間の励行が大切だということは議論の余地をもたない。

時間をムダにすることぐらい大きな損失はない。
いまの瞬間はお互いの生涯に再び返つてはこない。どんなに短い時間でも、これを活用することを忘れたら、それだけお互いの一生のマイナスといわなければならぬ。

* 土佐の高知の中村市では、「時を守る会」があつて、集会などで他の団体が主催した場合でも時間を守らないと会の名で警告を發するなど市民動と運して積極的に進められてゐるという事である。奈良県では県民運動として「大和時間」の追放を叫んでその効果をあげてゐるという。

* 県の新生活運動では、時間がいかに大切なものであるかをもう一度考へてみる事、どうしたら時間が守れるかをみんなで話合ふこと、約束の時間は必ず五分前にいくこと、いわゆる五分前運動を提唱してゐる。

時の励行こそは新生活運動の第一歩ではなからうか。

もう雨期に入つてゐる

万全を期する
水防態勢……★

水防法十周年に當つて

「ノドもとすぎれば熱さ忘るゝ」という諺がありますが、県民を恐怖のどん底におとし入れたあの六・二六の水害惨事も今年で満六年目をむかえたわけです。しかし、私たちはその事実を諺どおりにいま忘れてゐるわけではありませぬ。それどころか、その未曾有の苦しみに立つた私たちは、災害についての深い認識とその防除や復旧態勢に、はげしい意欲を燃やし、いつその努力を払つてきました。ところで、今年「水防法」ができてからその十年目に當りますが、私たちはここでもう一度過去の災害に思いを馳せながら、これからの水防態勢ということに眼を注いでみたいと思ひます。

災害はなぜ起る？

ご承知のとおり、今年はずてに五月の初めから雨の降る日が多く、暦の上では六月十二日から入梅となつてはいるものの、この調子でゆきますと、どうやら梅雨が一カ月も早く訪れてきた感じがいた

します。雨つづきとなると、まず私たちの脳裏をかすめるのは、過去の水害の苦しい思いでありましょう。そして、二度とふたたび……と、このような緊張の中に強く裏うちされているものは、やは



くり返すまいこの惨事 昭和32.7.26大水害(玉名郡天水村)